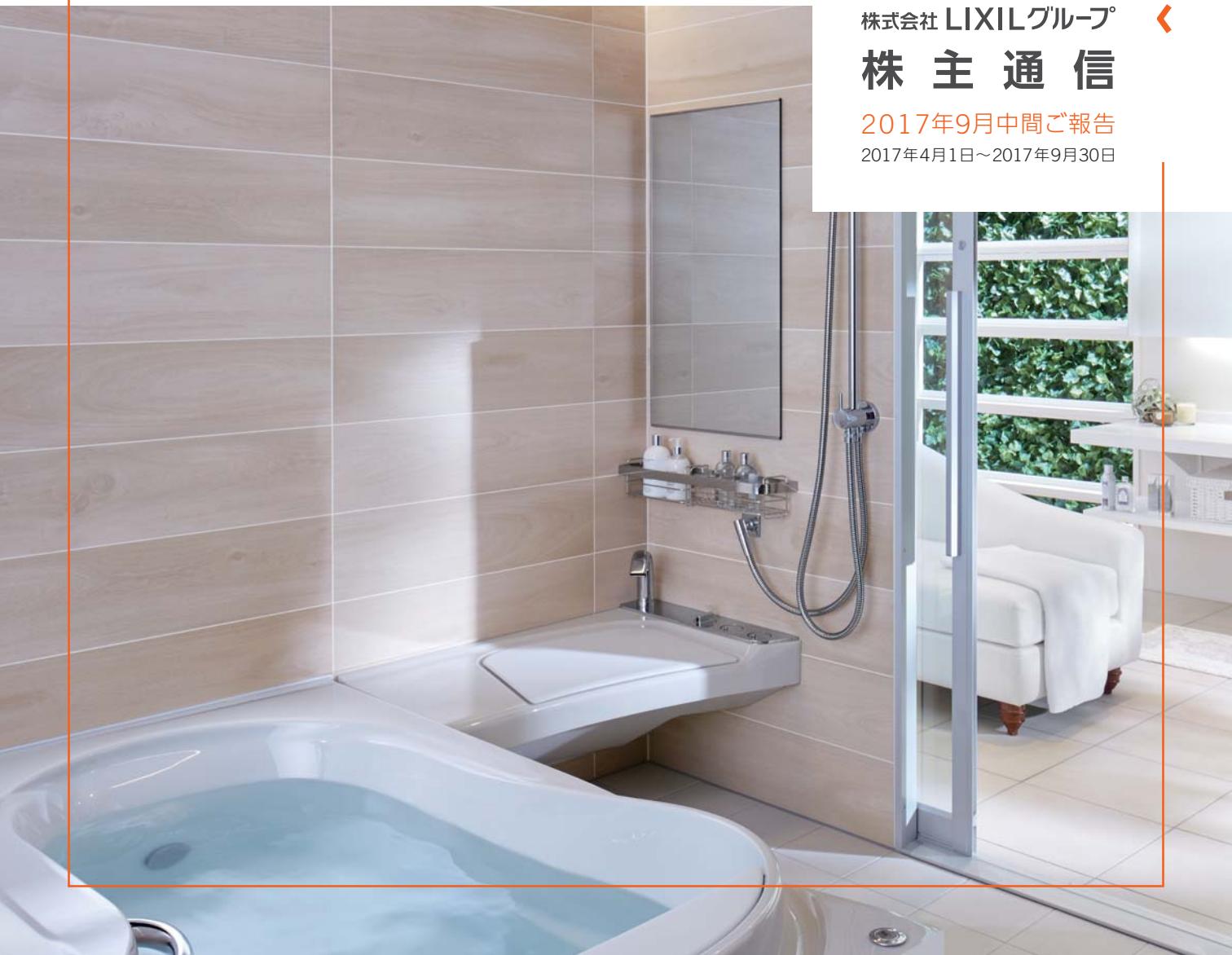


株式会社 LIXILグループ

# 株 主 通 信

2017年9月中間ご報告

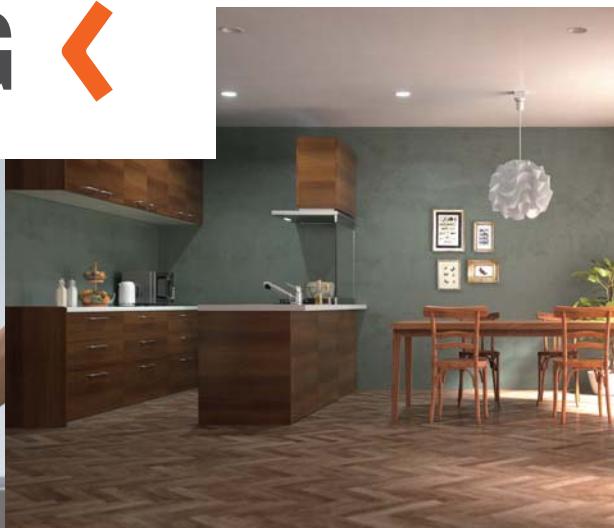
2017年4月1日～2017年9月30日



## Contents

社長メッセージ	02	株式の状況・株主メモ	17
特集:LIXILが伝えたいこと	07	会社概要	18
営業報告	11	株主優待のお知らせ	
セグメント情報	12	お問い合わせ先	裏表紙
株主さまアンケート結果	16		

# LINK TO GOOD LIVING



## 社長メッセージ



取締役 代表執行役社長 兼 CEO

瀬戸欣哉

## 持続的成長の実現に向け、 新中期経営計画を策定しました

### 2018年3月期上期の振り返り

当上期では、5月の決算発表時に公表した“グループ全体での優先課題”で最初に掲げた「組織体系の簡素化を継続」を実践し、経営資源の集中と事業ポートフォリオの見直しを進めてきました。

この大きな事例として、海外ビル事業のペルマスティリーザ社の売却を8月に決定しました。同社は2011年にグループ入りした、カーテンウォール事業

において世界で確固たる地位を築いている会社ですが、当社グループの事業と経営のサイクルやリスクの範囲など、経営管理の面で多くの違いがありました。同社の売却は、LIXILグループのバランスシートの改善と財務基盤の強化につながります。

その一方、2014年に当社が51%を出資した、衛生陶器の製造販売子会社である南アフリカのグローエ・ドーン・ウォーターテック社については、合併相

第2四半期累計(上期)の実績[国際会計基準]

(単位:億円)

		第2四半期実績(上期)実績					通期実績・予想		
		17年3月期 上期実績*1	18年上期実績				17年3月期 実績*1	18年3月期	
			予想*2	実績	前年同期比	予想比		予想*2	前期比
継続事業にかかる金額	売上収益	7,963	8,100	<b>8,099</b>	1.7%	△0.0%	16,332	16,800	2.9%
	事業利益	426	400	<b>407</b>	△4.5%	1.8%	898	930	3.6%
非継続事業を含む金額	当期利益*3	241	120	<b>128</b>	△46.8%	7.0%	425	430	1.2%

※1 ペルマスティリーザ社の売却決定に伴い、同社の事業を非継続事業に分類しています。これにより前年の実績も同様に組み替えたため、前年上期および通期実績の継続事業の売上収益・事業利益は、以前に発表した数字からペルマスティリーザ社の事業を除いた数字に変更しています。

※2 2017年8月21日発表

※3 親会社の所有者に帰属する四半期利益(上期) 同 当期利益(通期)

手の現地企業から残りの49%分を買取り、完全子会社化することを決定しました。これにより、南アフリカやその周辺地域における成長市場での事業拡大を目指すとともに、同社のガバナンス強化と事業効率の向上につなげていきます。

上期実績および2018年3月期業績予想

当上期の継続事業の売上収益は8,099億円、前年同期比1.7%増となりました。前年度に実施した事業売却および非連結化の影響を超えて、実質成長により増収となりました。特にLIXILウォーターテクノロジー(水回り)事業は第1四半期に引き続き国内外で堅調でした。

利益段階では、増収により事業売却・非連結化の影響をカバーしたものの、国内ITシステム費用や積極的なマーケティング投資で販管費が増えたため、事業利益は前年同期比4.5%減の407億円となりました。減益ではあるものの、5月および8月に公表した業績予想\*の上期事業利益400億円を達成できました。業績予想では前述の費用増を始めから見込んでおり、積極的なマーケティング活動は、LIXILウォーターテクノロジーおよびLIXILキッチンテクノロジーの好調な国内売上へ寄与しました。

\*8月にペルマスティリーザ社の売却を発表した際、同社事業を非継続事業に分類する業績予想修正を発表しました。同社売却以外の事業は修正を行っておらず、上期事業利益予想は400億円のままとなりました。

非継続事業を含む親会社に帰属する四半期利益は、前年同期の外貨建て借入金の円転などにより認識された為替差益の剥落110億円、ペルマスティリーザ社売却決定で計上された非継続事業からの損失の計上110億円により、前年同期比46.8%減の128億円となりました。

財務面では、4月に長期借入金491億円の繰上返済を行うなど、財務健全性の確保に注力した結果、自己資本比率は17年3月期末の26.8%から9月末は28.0%へ改善しました。

通期の業績予想は、8月に発表した業績予想のままで、売上収益1兆6,800億円(前期比+2.9%)、事業利益930億

中期経営計画—長期の持続的成長に向けて、LIXILを再定義する

業界をリードするグローバル基盤を確立し、  
更なる効率化・シナジー・イノベーションを進め、持続的競争優位性の獲得を目指す



円(同+3.6%)、非継続事業を含む親会社に帰属する当期純利益430億円(同+1.2%)です。

中期経営計画を発表

11月に新しい中期経営計画「Toward Sustainable Growth 持続的成長に向けて」を発表しました。これは私が2016年に当社の社長に就任してから、初めての中期計画となります。

長期の持続的成長に向けてLIXILを再定義するにあたり、上の表のように、私の就任以来の時間軸を3つのフェーズに分けました。今回の中期経営計画は、フェーズII「利益率の向上」、来年度

2019年3月期から2021年3月期までの3年間の計画となります。

利益率の向上

中期経営計画では、高い利益率を創出するビジネスモデルや組織を作ることによって、事業利益率を向上させることを最優先させます。持続的競争優位性の獲得を測る物差しとして、「2021年3月期 事業利益率 7.5%」を使います。3年でROEは10%以上、自己資本比率は35%、純有利子負債対EBITDA倍率で2.5倍以下を目標とします。これらの結果としてフェーズIIIで売上成長を促進させることができます。

中期目標達成を実現する施策

競争的優位性となる独自性の活用と一層の確立により持続的成長を実現するためにP06上の4つの施策を行っていきます。

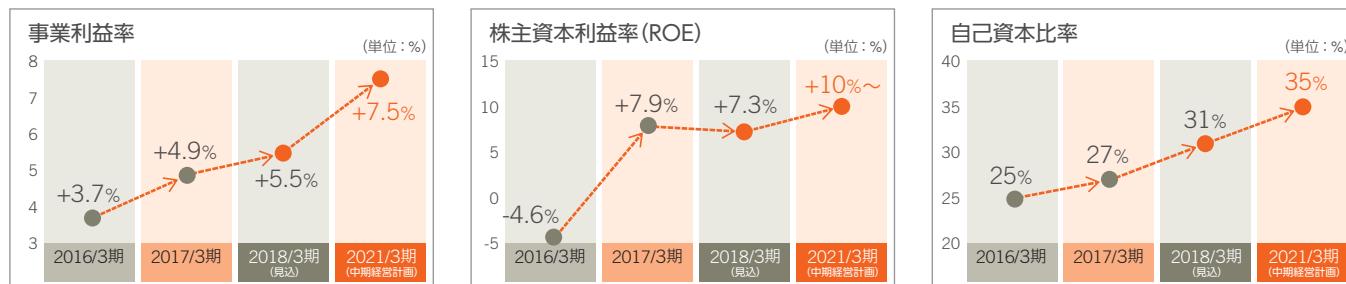
①持続的成長に向けた組織を作る

長期的にはこれが最も重要です。競争力のある組織を作ることができれば、いかなる環境の変化や技術の発展があっても対応できます。従業員の一人一人が起業家精神を普遍的な価値として受け入れ、全体として強い組織を作るために、3つの事柄に重点を置きます。

1つ目は「尊敬され、誇りを持てる会

成長のための体質改善—利益率の向上

フェーズII—事業利益率の向上を最優先させる



(注) 2019年10月の消費税増税実施、および、2015年に発行した転換社債の無転換を前提

社になる]です。その活動の一つとして、LIXILでは、“2020年までに1億人の人びとの衛生環境を改善し生活の質の向上につなげる”取組みを行っています。本誌P09にその一つ「みんなにトイレをプロジェクト」の活動報告を掲載しています。

2つ目、「従業員の行動様式こそが競争力となる」は、3つの行動を重視します。それは「正しいことをする」「敬意を持って働く」「実験し、学ぶ」です。「実験し、学ぶ」は、小さな実験を繰り返し、スピードを持った行動につなげることで、近年はデジタル技術の進化とハードウェアが劇的に安くなったこともあり、

議論するより試すことを連続することが早くかつコストを低く抑えて正解にたどり着く方法となってきました。

3つ目は「事業領域を常に再定義し続ける」です。当社の事業領域は、当社が他社よりも高い利益率を実現でき、新規参入者による破壊的な事業参入から防御できうる分野に、常に再定義をし続けます。

**②魅力ある差別化された製品の開発**  
ライフスタイル関連製品の業界はコモディティ化が進んでいますが、当社は多様なライフスタイルに対応する強いブランドを有し、こうしたブランドに対する投資を進めることで、利益ある成長につなげていきます。変化する消費者ニーズに

対応できるようイノベーション、デザイン、品質の向上を追求します。さらに、製品開発のための強い知財基盤を持ち、短いサイクルで差別化された製品を市場投入できるよう「アセットライト」のビジネスモデルへ移行します。加えて、組織構造の見直しを行い、製品開発・生産・販売の機能を一組織へ統合することで、製品開発サイクルのスピード向上を図り、メーカーとしての競争力を強化します。

**③競争力あるコストの実現**  
利益率向上のために、サプライチェーンの質的向上、間接部門の組織と業務の見直しによる効率化、製品開発プラットフォームの導入による開発コストの削減

中期目標達成を実現する施策

競争的優位性の確立により持続的成長を実現



**④エンドユーザー、インフルエンサーへのマーケティング**

市場環境やエンドユーザーのニーズの変化に素早く対応し、新たな価値を提供するため、エンドユーザーアプローチを強化していきます。インフルエンサー（工事業者、デザイナー、工務店など）に対しての積極的な働きかけや、お施主さまに選んでいただくための施策を実施していきます。

その事例として、昨年10月に開始した「リクシルPATTOリフォーム」があります。エンドユーザーがリフォームを行う際に「問い合わせが簡単・見積りが明瞭・工

事が早い]サービスです。サービスショップ登録店数、工事申込ともに順調に拡大しています。これを地道に広げ、リフォーム需要の拡大につなげていきます。

**長期的な持続的競争力の獲得に向けて**

2022年3月期以降のフェーズIIIでは、長期的な持続的競争力の獲得を目指します。

住宅建材および水回り事業は、世界中の中流層人口の急増により大きな成長が見込める産業です。自動車などでは、モノを所有せずに必要な時にシェアをする、というサービスが広がっています

が、私たちの産業では、実物をシェアリングするより、その設備を所有・占有することが依然重要です。したがって差別化できる製品とサービスを作り出すことができれば、大きな売上成長が期待できます。

当社は長期的に事業利益率のさらなる向上、そして売上成長を目指すことによって、当社の企業理念に掲げているように、優れた製品とサービスを通じて、世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献していきます。

株主の皆さまには、中長期にわたっての温かいご支援のほど、宜しく願い申し上げます。

↓  
LIXILが  
伝えたいこと  
**01**



## ➤ LIXIL独自の技術とデザインで 快適な暮らしづくりに貢献します

さまざまな住宅スタイルと美しく調和する

### 「LIXILカーポートSC」新発売

「LIXILカーポートSC」は、「カーポートは住まいの一部である」という考えのもと、機能性そのままに構造を一から見直すことで、住宅と美しく調和するデザインを追求した、新提案のカーポートです。屋根と柱のみのシンプルな構成による直線基調のフォルムや、屋根部全体にアルミを採用したことにより40mmという薄さを実現した屋根デザインは、モダンからナチュラル、和テイストまでさまざまな住宅スタイルに調和します。また、屋根材と柱を異なるカラーで組み合わせることも可能となっています。

**DESIGN**  
住宅との調和を  
追求したデザイン

**COLOR**  
住宅外観になじむ  
質感とカラー

**FUNCTION**  
太陽熱も  
汚れもすっきりと

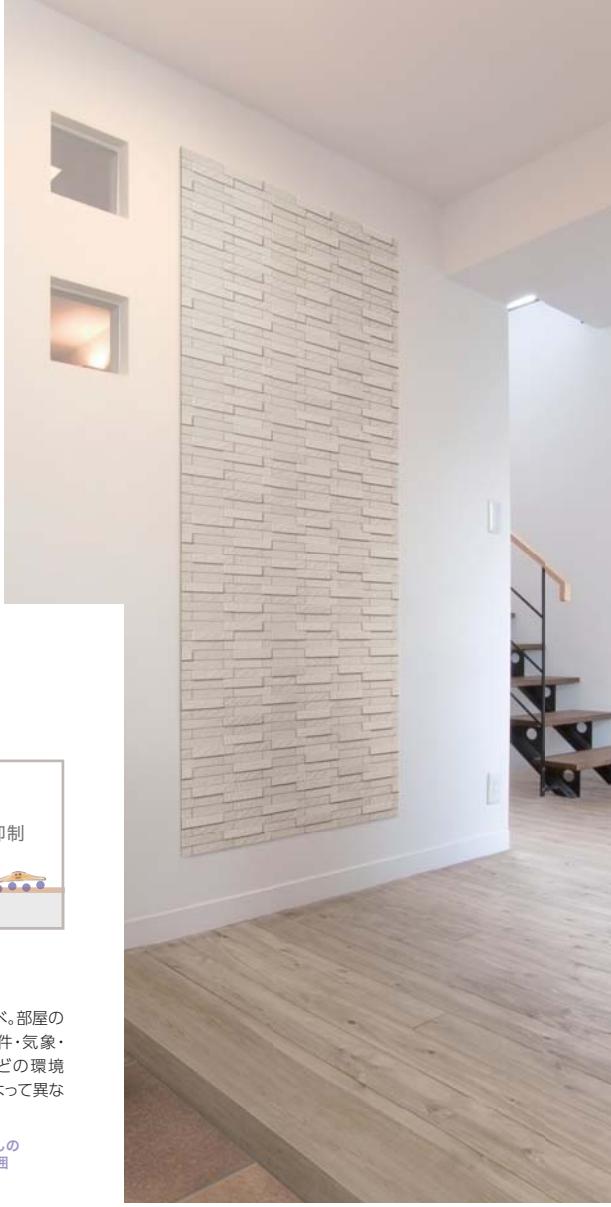
**WORK-  
ABILITY**  
シンプルな構造で  
施工もスムーズ

アレルギーの働きを抑制する業界初<sup>\*1</sup>のタイル

### 「アレルピュア」新発売

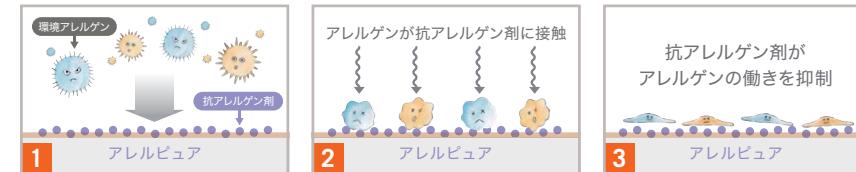
住まいの中に存在する環境アレルギーに注目し、特にスギ花粉が侵入しやすい玄関やハウスダスト(ダニのフンや死がい)が浮遊する室内向けに、抗アレルギーの機能を持たせた業界初の玄関内床・屋内壁タイル「アレルピュア」<sup>\*2</sup>を開発しました。LIXIL独自のコーティング技術で抗アレルギー剤を効果的にタイル表面に配置し、表面に接触した環境アレルギーに対して高い抑制効果が得られます。「アレルピュア」の性能は、外部試験機関<sup>\*3</sup>にて、スギ花粉やダニのアレルギーに対しての効果が確認されました。

<sup>\*1</sup> 2017年3月現在。当社調べ。  
<sup>\*2</sup> アレルピュアは、NPO法人「日本アトピー協会」より推薦品マークを取得しています。  
<sup>\*3</sup> [試験機関] 株式会社ピオスタ



#### アレルピュアの仕組み

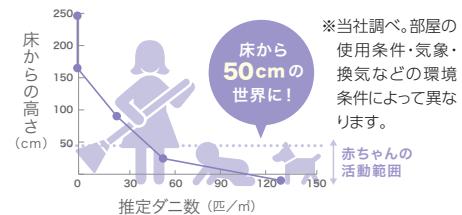
LIXIL独自の技術で抗アレルギー剤を表面にコーティング、接触した環境アレルギーの働きを抑制します



#### タイルで初めて、環境アレルギーの働きを抑制する機能を実現

住まいに存在する環境アレルギーが「アレルピュア」に触れると、タイル表面にコーティングされた抗アレルギー剤がその働きを抑制します。

#### 高さとの関係



↓  
LIXILが  
伝えたいこと  
**02**

➤ **世界の人びとにも  
快適な暮らしを届けたい**

「SATO Toilet」の  
最終寄付台数  
(実施期間2017年4月～9月)  
**208,805台**



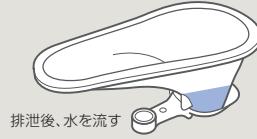
「みんなにトイレをプロジェクト」ご報告

LIXILが4月から9月に行った活動で、日本で提供する全ての一体型シャワートイレ1台の購入につき、簡易式トイレ「SATO」1台をアジア、アフリカの国々に寄付することで衛生環境の改善につなげる「世界の衛生環境を改善しよう！ みんなにトイレをプロジェクト」において、「SATO」の最終寄付台数が208,805台となりました。

LIXILが途上国向けに提供する「SATO」は、わずかな水量で洗浄できるため湯水地帯でも運用が容易で、従来の汲み取り式トイレの課題となっていた悪臭やハエが媒介する病気の伝染を防ぐことができる簡易式トイレです。これまでに世界15か国以上で約600万人の衛生環境の改善に貢献しています。

衛生環境の持続的な改善には、物資の提供だけでなく、トイレがないことによる弊害やトイレの利用を定着させるための啓発活動が重要です。今後LIXILは、この啓発活動を実施している国連機関や国際NGOの協力を得ながら、寄付することが決まった「SATO」を、安全で衛生的なトイレが不足している地域に順次届けます。

SATOの仕組み



世界の衛生環境を改善しよう！  
**みんなにトイレを  
プロジェクト**



➤ **LIXILグループが  
世界的な社会的責任投資の指標に選ばれました**

「Dow Jones Sustainability Index」

社会的責任投資に関する代表的な指標であり、世界の主要企業の持続可能性をESG（環境・社会・ガバナンス）の3分野において評価し、構成銘柄の選定を行っています。LIXILグループは、持続可能性を事業戦略に組み込むとともに、組織や地域の枠を超えたグローバルでの推進体制を強化してきました。その取り組みがこの度の初選定につながり、建設関連製品部門において、アジア太平洋地域で最高スコア、世界で3位という高い評価を獲得しました。

MEMBER OF  
**Dow Jones  
Sustainability Indices**  
In Collaboration with RobecoSAM

「FTSE4Good Index Series」

ESGの3分野すべてにおいて、高い評価を受けたグローバル企業が構成銘柄として選定されています。LIXILグループは、コーポレートガバナンス、気候変動への対応、労働環境、人権に関する各項目にて、従来よりも高い評価を獲得し、2017年6月の選定に至りました。さらに、日本株を対象とした「FTSE4Good Japan Index」および「FTSE Blossom Japan Index」にも選定されています。



「MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)」

ESG要素の中で社会面での企業の取り組みに特化し、女性の管理職や採用比率が高い日本企業で構成されています。女性の登用を積極的に進める企業は、日本での将来的な労働人口減少による人材不足への対応力が高いとみなされています。なお、本指数および「FTSE Blossom Japan Index」は、年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) における、ESG指数としても採用されています。

MSCI | 2017 Constituent  
MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)

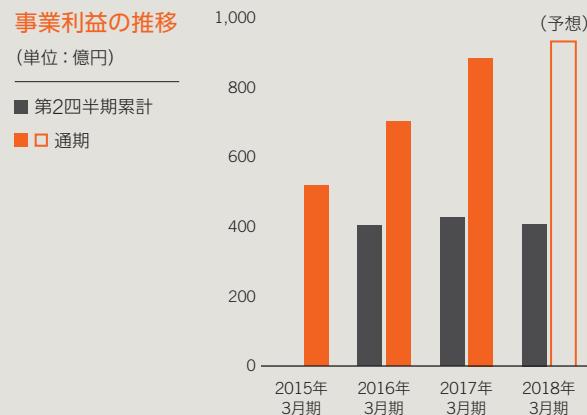
【免責事項】株式会社LIXILグループのMSCI指数への組み入れ、および本ページにおけるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたは指数名の使用は、MSCIまたはその関連会社による株式会社LIXILグループへの後援、保証、販促には該当しません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCI指数の名前およびロゴはMSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

主な経営指数の推移(連結)

	当第2四半期 累計期間 自2017年4月 1日 至2017年9月30日	前第2四半期 累計期間 自2016年4月 1日 至2016年9月30日	前期 自2016年4月 1日 至2017年3月31日
継続事業に係る売上収益(百万円)	809,912	796,293	1,633,229
継続事業に係る事業利益*1(百万円)	40,657	42,591	89,781
継続事業に係る営業利益(百万円)	37,751	41,203	69,251
四半期(当期)利益又は損失*2(百万円)	12,843	24,149	42,503
資本合計(百万円)	627,006	508,754	559,431
資産合計(百万円)	2,103,747	2,029,788	2,042,165
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	40,535	49,855	132,531
投資活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	△38,113	△19,980	△58,052
財務活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	1,349	△4,424	△79,899
現金及び現金同等物の四半期(当期)末残高(百万円)	122,714	148,540	121,563
親会社所有者帰属持分比率(%)	28.0	24.5	26.8
親会社所有者帰属持分当期利益率[ROE](%)	—	—	7.9
基本的1株当たり四半期(当期)利益又は損失[EPS](円)	44.59	84.15	148.01
1株当たり親会社所有者帰属持分[BPS](円)	2,040.19	1,733.27	1,902.18
1株当たり四半期(年間)配当金(円)	30	30	60

※1 日本会計基準における「営業利益」と同等、事業利益=売上収益-売上原価-販管費

※2 親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益又は損失



セグメント別の営業状況

	当第2四半期 累計期間(上期) (億円)	前第2四半期 累計期間 (億円)	前年 同期比 (%)
<b>売上収益</b>	<b>8,099</b>	7,963	1.7
ウォーターテクノロジー事業	3,418	3,183	7.4
ハウジングテクノロジー事業	2,652	2,700	△1.8
ビルディングテクノロジー事業	514	522	△1.7
キッチンテクノロジー事業	582	547	6.5
流通・小売り事業	875	872	0.4
住宅・サービス事業等	239	323	△25.9
(調整額)	△181	△184	—
<b>事業利益</b>	<b>407</b>	426	△4.5
ウォーターテクノロジー事業	325	302	7.4
ハウジングテクノロジー事業	170	196	△13.4
ビルディングテクノロジー事業	19	19	△1.1
キッチンテクノロジー事業	26	8	226.8
流通・小売り事業	46	49	△5.4
住宅・サービス事業等	11	23	△54.5
(調整額・のれん償却・取得原価)	△190	△172	—

売上収益内訳(当上期)



ウォーターテクノロジー事業	41.3%
ハウジングテクノロジー事業	32.0%
ビルディングテクノロジー事業	6.2%
キッチンテクノロジー事業	7.0%
流通・小売り事業	10.6%
住宅・サービス事業等	2.9%

※当社は2017年8月の連結子会社ペルマステイリーザ社の売却決定に伴い、同社の事業を非継続事業に分類しています。これに伴い売上収益、事業利益、営業利益は非継続事業を除いた継続事業金額を記載しています。前年実績も同様に組み替えたため、前年の継続事業の売上収益・事業利益・営業利益は、以前に発表した数字とは異なります。

## セグメント情報

### ウォーターテクノロジー事業



### ハウジングテクノロジー事業



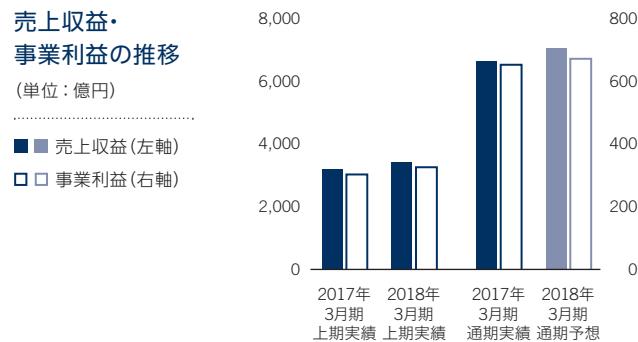
### ビルディングテクノロジー事業



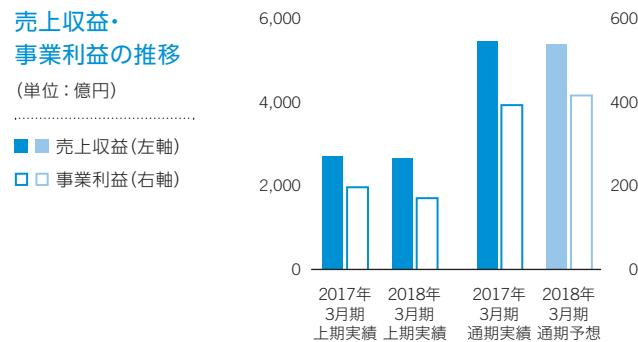
### キッチンテクノロジー事業



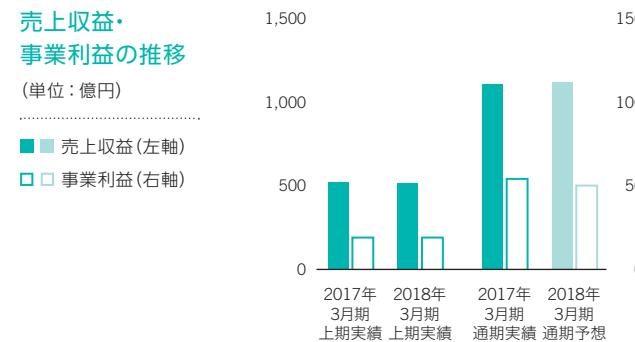
CMなど積極的な広告宣伝によって、国内では新素材「アクアセラミック」を採用したシャワートイレ一体型便器「サティス」や、清掃性が優れたフチレストイレ(写真:「アメージュZ」)にシート型シャワートイレ「New PASSO」を搭載が好調でした。バスルームでは中高級価格帯「スパーージュ」や集合住宅用が売上を伸ばしました。海外は欧州、中国が引き続き堅調でした。結果、売上収益は7.4%増収、事業利益は7.4%増益となりました。



売上収益は、前期に木材プレカット製品の製造販売等を行うハイビック(株)を売却した影響から、1.8%の減収となりましたが、その影響を除くと新築向けが好調で実質1%の増収でした。販管費でIT費用やマーケティング費用が増加し、結果、事業利益は13.4%の減益となりました。当期はリクシルPATTOリフォームの対象商品を拡充しリフォーム向け商品の拡販に注力しています。(写真:リフォーム用玄関ドア「リシエント」)



8月に、海外のカーテンウォール事業のペルマスティリーザ社の売却を決定したことに伴い、同社事業を非継続事業に分類しています。これに伴い、当期および前期の売上収益や事業利益は、非継続事業を除いた金額に組み替えています。現在の当事業の大半は国内事業となっています。選別受注の結果、当上期の売上収益は1.7%の減収、事業利益は1.1%の減益となりました。(写真:ビル用ハイブリッド断熱サッシ「PRESEA(プレセア)」)



国内ではテレビCMなど積極的なマーケティング活動により、主力の中高級価格帯でセラミックトップが特徴の「リシェルSII」(写真)が引き続き好調でした。また賃貸アパートの需要増に対し、コンパクトキッチンの売上も増加し、結果、売上収益は6.5%増収となりました。売上が好調で操業度が向上したため、製造コストダウンにつながり、事業利益は前年同期の3.3倍と大幅増益となりました。



流通・小売り事業



住宅・サービス事業等



ビバホーム  
LIXIL VIVA



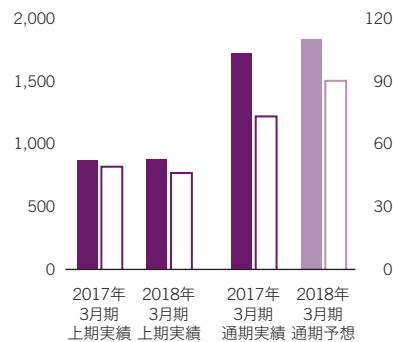
売上収益は0.4%増収とほぼ横ばいでしたが、利益面においては既存店の経費削減などに努めたものの、事業利益は5.4%の減益となりました。9月には、30代～40代の女性をターゲットにした新業態のライフスタイル提案型ホームセンター「ハウスデコ神戸南店」をオープンし、9月末の店舗数は89店となりました。なお、(株)LIXILビバは4月に東京証券取引所市場第一部に上場しました。(写真:スーパービバホーム厚木南インター店)

前連結会計年度に(株)日本住宅保証検査機構が連結範囲から外れた影響で、当上期の売上収益は25.9%の減収、事業利益は54.5%の減益となりました。(株)LIXIL住宅研究所のアイフルホームが主力の2階建て注文住宅商品「家族の絆と夢を育む家『セシボ』」の商品体系を見直して、気密性能と断熱性能という基本性能を強化し、標準仕様でZEH\*基準をクリアする新しい3シリーズを9月に発売しました。(写真)

売上収益・事業利益の推移

(単位: 億円)

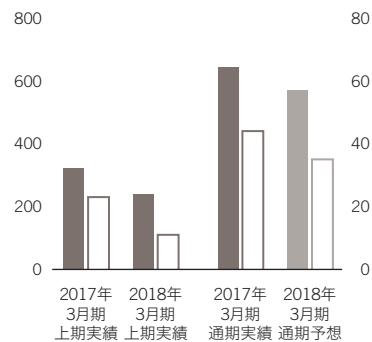
■ 売上収益 (左軸)  
□ 事業利益 (右軸)



売上収益・事業利益の推移

(単位: 億円)

■ 売上収益 (左軸)  
□ 事業利益 (右軸)

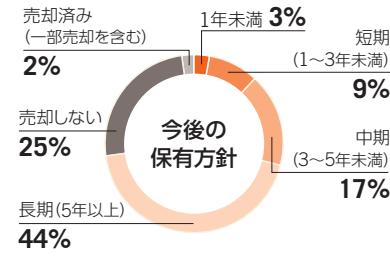
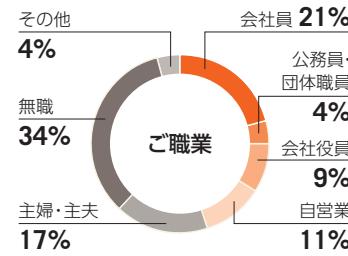
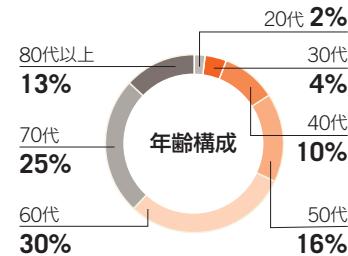


\*年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロ以下にする住宅のこと。

株主さまアンケート結果

6月に実施した株主さまアンケートでは、返信数11,799通、回答率27.5%と非常に多くの株主さまからご回答と貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。ご回答の集計結果の一部をご報告します。

1 ご回答者について



2 当社株式を購入する際、最も重視されたことは何でしょうか (上位7位)

順位	理由	割合	回答割合 (前年比)
1	将来性・成長性に期待しているため	42%	42% (+1P)
2	業績の安定性に期待しているため	15%	15% (+2P)
3	配当利回り	10%	10% (-1P)
4	当社関係者・取引先	6%	6% (OP)
5	株主還元	4%	4% (-1P)
6	株主優待制度	4%	4% (OP)
7	当社のファン	4%	4% (OP)

3 株主さまからのご質問にお答えします

Q. IFRS (国際会計基準) 導入の理由は?

A. 当社は2009年にアメリカンスタンダード・アジアパシフィック (現 LIXILアジアの一部) をグループ入りさせて以来、海外の会社の買収を続け、事業のグローバル化を進めてきました。そこで、資本市場における財務情報の国際的な比較可能性の向上などを目指して、2016年3月期決算からIFRSで連結財務諸表を作成することを、2013年に決定しました。ご参考までに2017年10月現在、日本証券取引所に上場している企業のうち、IFRSを適用している会社は139社です。

4 当社へのご意見、ご要望

今回も多くの激励、製品やホームセンター店舗等のご愛用、リフォームへの取組みや海外でのシャワートイレの普及拡大への期待の声をいただき、誠にありがとうございました。特に6月発行の株主通信に掲載した「みんなにトイレをプロジェクト」へ高い評価をいただきましたので、その結果をP09に掲載しました。一方、業界の問題として「製品価格や工事代金を明確に」というご意見をいくつかいただいております。当社は「リクシル PATTO リフォーム」サービスの拡充などを通じて対応して参ります。

## 株式の状況(2017年9月30日現在)

### 株式数および株主数

発行可能株式総数	1,300,000,000 株
発行済株式の総数(自己株式24,762,365株を除く)	288,291,890 株
株主の総数	41,599 名

### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行(株)信託口	12,724*	4.41%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)信託口	11,719*	4.07%
STATE STREET BANK CLIENT OMNIBUS OM04 (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	9,582	3.32%
野村信託銀行(株)信託口	8,896*	3.09%
第一生命保険(株)(常任代理人 資産管理サービス信託銀行(株))	6,561	2.28%
LIXIL従業員持株会	6,476	2.25%
(株)三井住友銀行	5,543	1.92%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)信託口5	5,505*	1.91%
公益財団法人LIXIL住生活財団	5,000	1.73%
JPMC OPPENHEIMER JASDEC LENDING ACCOUNT (常任代理人 (株)三菱東京UFJ銀行)	4,962	1.72%

- (注) 1. 上記の他に当社は自己株式24,761千株を所有しています。持株比率は、自己株式を控除して計算しています。  
2. ※はすべて信託業務に係るものです。  
3. 野村信託銀行(株)信託口8,896千株は潮田洋一郎氏が委託した信託財産であり、信託契約上、議決権の行使については同氏が指図権を留保しています。

### 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
株主確定日	定時株主総会議決権行使株主・期末配当金受領株主 3月31日、 中間配当金受領株主 9月30日

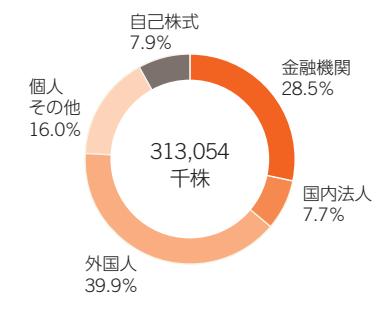
上記のほか必要ある場合は予め公告して基準日を設定。

公告の方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。公告掲載URL: [http://www.lixil.com/jp/investor/electronic\\_public/](http://www.lixil.com/jp/investor/electronic_public/)

株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

1単元の株式の数	100株
上場取引所	東京証券取引所・名古屋証券取引所

### 所有者別分布状況



金融機関	89,309千株
国内法人	23,953千株
外国人	124,809千株
個人その他	50,219千株
自己株式	24,761千株
合計	313,054千株

#### お知らせ

- 株主さまの住所変更、買取請求、買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行、電話0120-232-711(通話料無料))にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
- 配当金の口座振込をご指定の株主さまと同様に、「配当金領収証」により配当金をお受け取りになられる株主さま宛にも「配当金計算書」を送付いたしております。「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成する「支払通知書」を兼ねております。配当金をお受け取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。なお、配当金を証券口座でお受け取り(株式数比例配分方式)の株主さまは、お取引のある証券会社でご確認ください。

## 会社概要

### 会社概要

(2017年9月30日現在)

社名	株式会社 LIXILグループ
英文社名	LIXIL Group Corporation
設立年月日	1949年(昭和24年)9月19日
本店	〒136-8535 東京都江東区大島二丁目1番1号
本社事業所	〒100-6036 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング36階
資本金	68,121百万円
決算期	3月31日
従業員数	55名(連結従業員数 60,556名)
主な事業内容	国内外の住生活関連事業・都市環境関連事業を営む会社の株式または持分を取得、所有することによる当該会社の事業活動の支配、管理を行っております。

### 執行役

(2017年9月30日現在)

代表執行役社長兼CEO	瀬戸 欣哉
代表執行役副社長	川本 隆一
執行役副社長	松本 佐千夫
執行役副社長	白井 春雄
執行役副社長	大坪 一彦
執行役専務	ローレンス・ウィリアム・ベイツ
執行役専務	ファ・ジン・ソン・モンテサーノ
執行役専務	松村 はるみ
執行役専務	二瓶 亮
執行役専務	金澤 祐悟

### 委員会構成

(2017年9月30日現在)

<指名委員会>	委員長	山梨 広一
	委員	潮田 洋一郎
	委員	吉村 博人
<報酬委員会>	委員長	パーバラ・ジャッジ
	委員	幸田 真音
	委員	山梨 広一
	委員	菊地 義信
<監査委員会>	委員長	川口 勉
	委員	金森 良純
	委員	吉村 博人

**免責事項** この株主通信には、(株)LIXILグループの将来についての計画と予測の記述が含まれています。これらの計画と予測は、リスクや不確定要素を含んだものであり、実際の業績はさまざまな重要な要素により当社の計画・予測と大きく異なる結果となる可能性があります。

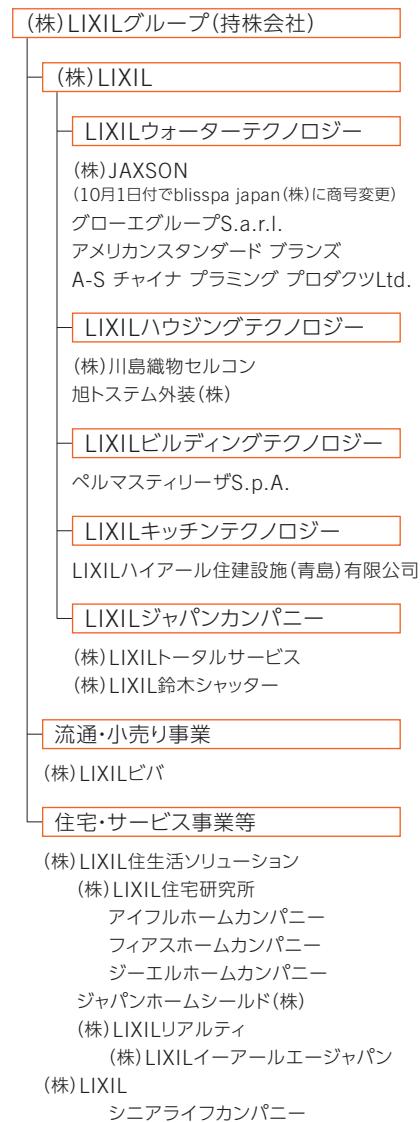
### 取締役

(2017年9月30日現在)

取締役	潮田 洋一郎
取締役	瀬戸 欣哉
取締役	金森 良純
取締役	菊地 義信
取締役	伊奈 啓一郎
社外取締役	川口 勉
社外取締役	幸田 真音
社外取締役	パーバラ・ジャッジ
社外取締役	山梨 広一
社外取締役	吉村 博人

### 主なグループ会社・事業

(2017年9月30日現在)



# 株主優待のお知らせ

## 1 リフォーム株主優待

「リフォーム株主優待申込書」を贈呈。株主優待対象商品を使ったリフォーム工事を行い、かつ申込くださった方へ、約2か月後に商品券をお送りします。

## 2 生活サービス株主優待

ハウスクリーニング・衣類クリーニング・布団クリーニングに使える割引券を贈呈。サービス提供会社の変更に伴い、内容を前年から少々変更しています。

2017年9月30日現在の当社の株主名簿に記載または記録されている100株(1単元)以上を保有されている株主さまへ、「株主優待制度ご利用ガイド2017-18」と「リフォーム株主優待申込書」を本誌に同封しています。皆さまのご利用をお待ちしています。

※「リフォーム株主優待申込書」等の株主優待関連書類の再発行はいたしておりません。ご了承ください。

詳細は同封の「株主優待制度ご利用ガイド2017-18」をご覧ください。



リフォーム株主優待申込書 (A3サイズ 裏面は封筒面となっています。)



## お問い合わせ先

### 株式についてのお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行：証券代行部 0120-232-711 (P17「株主メモ」ご参照)  
LIXILグループ：03-3638-9300

### 本誌の内容についてのお問い合わせ

LIXILグループ：IR室 03-6268-8806

### 株式会社LIXILの商品に関するお問い合わせ

お客さま相談センターのフリーダイヤルで承ります。商品により電話番号が異なりますのでご注意ください。  
受付時間 平日 9:00~18:00、土日祝日 9:00~17:00(ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く)

- サッシ、ドア、エクステリア ☎0120-126-001
- トイレ、化粧台、浴室商品、タイル商品 ☎0120-179-400
- キッチン商品 ☎0120-190-521

## 株式会社 LIXILグループ

本店：東京都江東区大島二丁目1番1号  
本社事業所：東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング36階  
ホームページ：<http://www.lixil.com/jp/>

表紙、P01-02(下中央の写真除く)、P07、P08、P13、P14の製品および施工例写真は(株)LIXILの著作物です。